

# Lessons from History of Easter Island

## Lesson 7 — Mistakes We Should Not Repeat

### ■イースター島における森林破壊のもう一つの説

イースター島のいたるところにあるモアイ像。この巨大な石像を運搬するために必要な木材が島に見当たらないのは、愚かにも島民が過剰に切り倒してしまったからです。

このようなイースター島とモアイ像に関する説明は、安田喜憲『モアイは語る』などを通して広く知られている事実です。これはもともと『文明崩壊——滅亡と存続の命運を分けるもの』（ジャレド・ダイヤモンド著、楡井浩一訳、2005、草思社）という本によって広まった説ですが、「モアイ像の運搬に木材はいらない」と主張する人たちが現れました。2011年、ハワイ大学のテリー・ハントとカリフォルニア州立大学のカール・スミスが「自分で歩いて行った」という島の伝説をヒントに従来の説を試みたのです。

モアイはお腹がでっぴりと突き出ているため、まっすぐに歩くと倒れそうになります。つまり、重心が意図的に前方に寄りやすい形に作られています。そのため、まずは前に傾きすぎないように後ろに引っ張るためのロープを1本モアイに巻きつけ、さらに左右の脇に1本ずつロープを巻きつけて、右左交互に引くと、特別大きな力で引っ張らなくても、前のめりになる力を利用してまるで人間が歩くように右、左と傾きながら前進していくのです。二人の研究者が行った実験では、高さ3メートル、重さ5トンの複製モアイを、たった3本のロープを18人の力だけで数百メートル動かすことに成功しています。



生徒用資料集は、授業の興味付けに役立つ  
レッスンのトピックに関連した読み物です。



### ■イースター島の森林はネズミによってなくなった

この「モアイは自分で歩いて行った」説によると、イースター島の森林破壊は人間ではなく、ナンヨウネズミによって引き起こされたものであると考えられています。